

私は3週間の教育実習で授業の実践力を高めることを一番の目標として実習に臨んだ。普段から地元
の学校にボランティアに行っていることもあり、子どもや先生とコミュニケーションをとることに
関しては自信があった。お世話になった先生方も多い学校で、ホームルームの担任の先生は私の高校1年生
の頃の担任の先生だったので、実習がしやすい環境であった。授業実践に関しては、大学で模擬授業を
少しやっただけであったので、教壇に立つということには不安があった。教壇に立った時、板書を見や
すい字で書く、大きい声で話す、生徒がわかりやすいような発問を考えるといった力をつけたいと思
って実習に臨んだ。もう一点私が教育実習に臨んだことは、できるだけ多くの先生と関わるというこ
とだ。自分がお世話になった先生以外の先生ともお話をさせて頂くことで、その先生が生徒を指導する
時、どんなことを大切にしているか、授業の中で工夫している点などが見えてくると思ったからだ。

教科に関しては、あまり授業をする機会がなかったので、正直実践力は身につけられなかったと思
う。教壇実習が2時間、かつ授業クラスも科目も異なっていたので、今日の失敗を明日は改善する、と
いったこともできなかった。授業をするにあたり、実習前から教材研究を行い、発問等は先生に相談し
たり、授業見学で見たものを真似するようにした。たった2回の授業で完璧に授業をすることは不可能
である。なので私はとにかく元気に、笑顔で、生徒とのやりとりを大切にしながら授業をすることを心
がけた。研究授業は22人もの先生方が見に来てくださった。どの先生からも「声が大きくて聞きとり
やすかった」や「元気なところがいい」と言って頂いた。授業時数は少なかったが、大きな失敗もせ
ず、私が思い描いていた授業ができたと思う。授業後、指導教諭に「本当に教員になりたいのだとい
うことが伝わってくる授業でした」と言って頂けたことが嬉しかった。欲を言えばもう少し授業はやりた
かったが、たった2回でも、雰囲気の良い授業づくりができて良かったと思っている。このようによい
授業になったのは、生徒のおかげである。私は授業クラスの生徒たちには、授業見学の際に積極的に声
をかけるようにしていた。なので、研究授業の時、「前に答えを書きに来てくれる人」と声をかける
と、たくさんの生徒が挙手をして協力してくれた。教員と生徒との良い関係が築けているからこそ、良
い授業は成り立つのだと思う。

私は3週間で、生徒とも先生方とも深く関わることができたと思う。実習初日の午前中が学校行事だ
ったこともあり、生徒とはすぐに話すことができるようになった。生徒から声をかけてくれることが多
かったので、私が助けられていたと思う。生徒の中には清掃をやらずに帰ったり、置き勉をして反省文
を書いたり、二人乗りをして指導を受けていたり大変なことがたくさんあった。特に、わたしは
1日目から学級の掃除監督をさせて頂いていたのだが、なかなか生徒が掃除をやらず、少し目を離せば
スマホを触ったり友達と話していたりという状況で、とても大変だった。そんな生徒たちとどう向き合
い掃除をやらせるかということに悩み、葛藤した。私はほうきの本数が足りないという理由で掃除監督
をしているだけだったのだが、生徒と一緒に掃除をやるようにしてみた。一部の生徒は私が何をしても
変わらなかったが、ほとんどの生徒が私と一緒に掃除をしてくれるようになった。向き合ったからこそ
の結果であると思うが、初めから生徒と一緒に掃除をするようにしておけばよかったと反省した。

生徒との関わりは部活動でも持つことができた。私は在学時はバレーボール部だったので、バレーボ

ール部の練習に参加させて頂いた。部活動に参加したことで、授業では関わりがなかった2年生とも関わることができたので良かったと思う。生徒と話していると、高校生なりに自分の考えを持っていて、私が勉強させられることも多くあった。部活動や人間関係についての悩みを相談されることもあり、的確なアドバイスができていくかわからないが、悩みを打ちあけてくれたことが嬉しかった。私は初めに挙げた2つ目の目標であった多くの先生と関わるということは、達成されたと思っている。たくさんの先生かたとお話しさせて頂くことができた。進学校に勤めていた頃のお話や、生徒指導の時に大切にされていること、採用試験の面接のお話など、私が入らせて頂いた学年の先生をはじめ、多くの先生とお話しさせて頂いた。ある一人の先がおっしゃっていた言葉で印象に残っていることがある。「わからないのを生徒のせいにしたら教員は終わり」という言葉だ。生徒がわからないのは生徒のせいではない。自分の教え方が間違っているのだ。私もこのことを忘れず、教員として授業をやっていこうと思った。

道徳・人権分野の授業は実習期間中にはなかったが、実習初日に、近隣のドライビングスクールで自転車講習という行事があった。生徒と深く関わった特別活動は朝と帰りのホームルームの時間である。3日目から私が担当することになった。初めはあたふたしていたが、途中からは余裕ができ、生徒とのやりとりを大切にしながら進めることができた。特別活動ではないが、地震の時、避難している生徒たちと話していると、地震を怖がる生徒もいれば、全く動じることなく緊張感のない生徒もいた。私は地震が怖くて怯えていたので、生徒と話すことで気持ちが落ち着いた。

この3週間で、私は初め実践力を身につけたいと思っていたが、それ以上に生徒と向き合う力、人と関わる力こそ本当につけるべき力だったのではないかと思う。教育実習と言えば授業実践が一番だと思っていた。もちろん教員になる以上、授業力は欠けてはならない。しかし、学年の一人の先生が私に「仕事を覚える、授業のコツを学ぶといったことは後から付いてくるのであって、何より生徒と正面から向き合える力は、どの教員でも持っているもではない。あなたを見て、私も励まされました。」と言ってくれた。私自身、実習中は思い通りにいかず悩み、葛藤した。自分は向き合っているつもりだが、生徒にとってはどうなのだろうと思ったこともあった。しかし、生徒は最後まで私と関わってくれ、別れを惜しんでくれた。私は生徒と向き合うことができていたのだと思う。いろいろなことがあった3週間だったが、私にとって大切な母校で教育実習をやらせて頂くことができて本当に良かった。